

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年5月31日

【評価実施概要】

事業所番号	1172800607
法人名	社会福祉法人人間福祉会
事業所名	扇揚苑グループホーム
所在地	〒358-0035 埼玉県入間市大字中神853番地1 (電話) 04-2935-0122
評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年5月28日

【情報提供票より】(平成20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 7人, 非常勤 13人, 常勤換算	17.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 2階建ての1階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	68,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり1,500円			

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	6 名	要介護2	8 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.6 歳	最低	79 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	人間ハート病院、原田病院、東京青梅病院、山中歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、西武池袋線入間市駅からタクシーで15分の茶畑の広がる狭山丘陵に立地する。周囲には農地と圏央道が走り、住宅はほとんど見られない。地域包括支援センター、在宅介護支援センターの在宅介護の中心機関を備え、特別養護老人ホームを中心に同一施設内にショートステイとデイサービスも併設する高齢者福祉複合施設になっている。建物内部は、高い天井に採光の天窓つきの2ユニットが対称に造られているため、ユニット間の行き来が可能であり、介護職員の動線を考えたやさしい構造になっている。一部が事業所となっているが、開設以来の職員の努力により、大変落ち着いた家庭的な雰囲気で作られている。管理者、職員が同じ目線でケアサービスの向上に取り組んでおり、利用者も安心して過ごしている。開設して5年目を迎え、これまでの試行錯誤の様々なケアのための取り組みが、これから実を結ぼうとしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価の結果について、確認の為の会議が開かれ、全スタッフに開示して取り組んでいる。フラットなフロアに、パブリック、セミパブリックのスペースを作るため、観葉植物を仕切りに使用したり、日常の様子をビデオに収めて家族に見せるなどの工夫をしている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価については、管理者と中心となる職員が作成しており、評価後は、スタッフ会議で確認をしているが、全職員が関わっての作成にはなっていない。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 2~3か月に1回、定期的開催している。市の高齢者福祉の担当者や自治会、老人会の代表者、家族会の代表者が出席しており、記録も残して熱心に取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 施設便りを発行し、生活の様子やイベント、行事の様子などのイラストや写真を入れて報告している。利用者、家族の意見などは、家族会の開催や『苦情申し出窓口の設置及び第三者委員について』に記載されている通り、苦情や相談がしやすい方法がとられている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地元で望まれて作られた施設ということで、地域に溶け込んでいる。小・中学校とも総合学習やボランティア活動で交流があり、地域の一員として受け入れられるように努めている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に望まれて作られた施設ということもあり、開設以来の理念は、地域密着型になってからも地域に根ざしているものとして変わっていない。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基づく統一された介護サービスへの考え、方法については、常に管理者、職員が意見を出し合って話し合いをし、日々の生活や仕事の流れの中で共有化を進めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事には、積極的に参加をしている。地域の小・中学校とは総合学習の時間やボランティア活動などの交流がある。また、法人全体の行事に大きく地域が絡んでおり、その行事に参加することで、交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎日の申し送りや月に1回行われているスタッフ会議で、様々なことが話し合われており、自己評価及び外部評価についてもその折に内容が開示されて話し合い改善に取り組んでいる。今回の自己評価の作成においては、職員全体で関わり作成するには至っていない。		評価の効果をもたらすためには、評価を受ける前・後の過程において全職員で取り組むことが重要である。自己評価においても、その意義を理解し、職員全てが関わることができるような取り組みが期待される。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が地域への情報発信の場になり、また、情報を掴む場にもなるという考えに基づいて開催しており、運営に関する意見なども出してもらい改善に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所担当者は会議の時以外に来所することはないが、経営主体の法人が地域包括支援センターと在宅介護支援センターという高齢者の機関をもっていることで、職員の交流はあり、連携は図られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	施設情報誌を作成し、写真、イラスト入りで楽しいものになっている。しかし、個々の日常生活の様子を伝えるなどの報告が文書や口頭でされていない。		利用者の日々の生活の様子を定期的に伝えるとともに、個別の報告を積極的に行い、家族に情報提供していくことが望まれる。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、必ず家族会代表者が出席し意見を述べる機会がある。苦情などが出たときには、それがどういうプロセスで解決されていくかの記録も残している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニットあるが、職員は固定している。大きな組織を持つ社会福祉法人が経営しているため職員間の異動はあるが、最小限にとどめるように配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の研修に熱心に取り組んでおり、資格の取得時などには、休みにも配慮して支援している。認知症の研修には、外部講師も要請している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	人間市内ではグループホームの数が少なく交流もほとんどないが、グループホーム協議会の研修に参加するときに交流を図るように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前はなるべく本人に来苑してもらい見学してもらっている。入居後も早く慣れることができるように、今まで使っていたものを持参してもらい、他の利用者との間を職員が橋渡しするなどの配慮をしている。また、家族の協力を得たりもしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>生活を共に過ごすという考えでケアをしている。一人ひとりとは、できることはしてもらい、できないことは手伝うという支援のもと、喜怒哀楽を共有して感情を大切にしながら一緒に過ごしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居前の生活の様子を本人、家族から聞くなどして、本人の思いの把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日々の記録は大切に事細かく記載されており、ケアプランが活かされるように工夫している。来苑時の家族への声かけは密に行われており、利用者本位のプランになっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的に見直しを行っており、毎月1回のカンファレンスを開いて利用者、家族の様々な変化に対応して作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望により通院介助を行うなど、状況に応じた支援をしている。また、経営主体の社会福祉法人が様々な機関を持っているため、デイサービスやショートステイなどの利用から入居に至った例もある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医になっている。必要であれば、職員による通院介助を行うこともある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居について、医療行為のある方は困難であるとしている。しかし、家族等の希望により、『看取り』についての研修に取り組む予定であり、併設の特別養護老人ホームとともに『看取りの指針』の作成に取り組んでいる。		看取りの指針の作成に引き続き取り組んでいただき、関係者全体の方針の統一を図っていくことが期待される。また、本人、家族の安心と納得を得るためにも、状況の変化に応じて話し合いを重ねることが望まれる。
へいせい					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ケアの記録やカンファレンスの時など適切な対応ができるように配慮している。個人情報については念書をもらい対応している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで生活ができるように配慮している。どのように暮らしたいかは、利用者本位に進められ、喜び、生きがいを持って生活できるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は和やかな雰囲気の中、職員手作りの料理を一人ひとりのペースで、職員も一緒に座って食べている。食材は毎日利用者がスタッフとともに買い物に外出しており、習慣となっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりのペースで入浴できるようになっている。夕食後の入浴も可能である。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が今まで築いてきたものを大切にして、役割をもって生活してもらっている。職員は情報を共有しながら、その人の趣味や好きなことへの支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	昼食の食材購入が利用者の大きな役割になっており、職員も全面的に協力している。また、それ以外の日常的な外出の支援も欠かさず行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関や居室に鍵をかけることなく支援できるように取り組んでいる。必要性があるとされる場合には、職員、家族と話し合い検討をしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービスとともに定期的に避難訓練を行っており、夜間を想定した訓練も実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の日誌に、個別に食事量を記載し、職員は内容を把握した上で対応している。水分については、摂取量が少ない方には特に配慮し、必要に応じてチェックするように努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特別養護老人ホームやショートステイなどの施設の一部として開設されており、鉄筋コンクリート作りであることから、いかに家庭的な雰囲気を作るかを課題とし、一般家庭用の物を選ぶなどの工夫をして取り組んでいる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く、かなり広いスペースが取られている。利用者個人の家具などを持ち込んでもらっており、各個室のしつらえは、個人、家族の自由に任せているが、職員も一緒に考え、本人が心地よく過ごせるように工夫をしている。		